9月定例会 町政を問う 一般質問

議会風景

Q 次期町長の構想は
A 後期計画を基本

若林 達治 議員

町長は六月議会で、来年一月執行予定の町長選への出馬を表明されました。

次期町長に選ばれた場合どのような視点で行政執行していくのか。

山碕 英樹 町長

町民の皆様の支持が得られるならば、まず財政規律を保ち、行財政改革を進めていきます。

今後は人口減少を食いとめるため、Iターン・Uターン者などの年間目標を定め、取り組みます。

また、地域経済の活性化への取り組みや、後期基本計画につなぐ大切な時期であり「いのち彩る里飯南町」に向け、町づくりの先頭に立って努力していきます。

Q 町有林の有効活用を
A 活用に努力

若林議員

町有林は十一箇所で約一、二五〇ヘクタールがあり、収入につながる貴重な財産です。

将来に備え、町有林を各団地ごとに立木の評価調査を行い、利用間伐など財政に役立つよう年次計画を立て、有効に活用すべきでは。

山碕町長

今後は、除間伐が主体となり、美しい里山環境の保全、CO2削減の観点からも整備は必要です。また、計画期到来のおりには評価を行い、売却など検討して有効活用に努めます。

Q 松江大橋川改修の早期着手を
A 機会ごとに要望

永井 章 議員

志津見ダム完成まで二年あまりとなったが、同時竣功であった下流の松江大橋川の改修は大幅に遅れています。ダム移転者の心情を考えるとき、誠に遺憾と考えます。

早期着手に向け、強力に県や国へ要望すべきでは。

山碕 英樹 町長

建設に同意された経過を考えると、一日も早い完成が必要です。

七月、松江市から前向きな発言もあっておりますが、飯南町としては三点セット完成をもって事業の完了との認識なので、機会あるごとに要望しています。

進む志津見ダム工事

Q 残事業の実現を
A 要望を続ける

永井議員

志津見ダム湖周辺整備事業は、地元関係組織から意見聴取のうえ、残事業については早期実現のため国や県に要望されたい。

山碕町長

地元関係組織と協議・連携して関係機関と調整を進めています。

無農薬米の刈り取り

Q 農家に緊急支援の考えは
A 生産費の低減化に支援

瀧尻 行雄 議員

農業生産額が四年連続で減少し、営農組合でも農業関連資材の高騰により収支は悪化の一途をたどっており、農家の苦悩は濃くなるばかりです。

このまま放置すれば生産意欲の減退、離農などが懸念されます。経営安定のため緊急的所得支援をする考えは。

山碕 英樹 町長

農業所得確保対策、適正施肥のための土壌診断の推進、価格補填などの緊急支援対策など、政府、関係機関へ強く要望しました。

今の状況は長期化が想定されており、生産方式を低コスト化する必要があり、ここに支援をするべきと考えます。

国はこの観点に立って補正予算を編成しており、不足があれば町独自の支援を考えます。

Q 和牛増頭対策に組織力を
A システムとして確立

町内で開催された畜産共進会

瀧尻議員

和牛改良組合では、増頭運動の展開、研修会の実施、受胎率向上対策、改良対策の推進と、きめ細かく事業が推進されています。

しかし、高齢化により、技術はあるが体力はついていかない心配があります。

集落営農組織に遊休牛舎や遊休ハウスを利用し、土地利用型農業につなげ、組織内での耕畜連携を行い、次世代への技術指導や農外企業の参入を図る考えは。

山碕町長

集落営農組織等で和牛を導入し、飼育することは利点があります。

稲わら収集機や堆肥散布機の導入等支援し、システムとして確立したいと思います。

Q 農産物販売を行政の責任で
A 販路拡大に努力

瀧尻議員

農家が生産し、自ら販売しなければ収入につながらない時代が来ています。

販売という部分こそ行政の責任で充実させるべきであり、継続的安定的収入が得られるよう、材木、米、施設園芸、畜産の販売部門を強固にする動きを求めるとともに、農家への連携と指導を強化し、マーケット開発を急ぐ考えは。

山碕町長

商工業品を含めた本町の産物の拡販を目的として、里山コミッションを立ち上げました。今後、産物の紹介、販売を行うホームページの立ち上げなど行い、販売の窓口を広げます。

販路拡大に合わせ、産直市等に一定量の確保が課題となっている面もあり、生産者の育成も同時に行う必要があります。